

平成30年度(2018年度)採用試験・選考に関する情報

- ・技術…土木、建築、機械、電気のことです。
- ・資格・免許は取得見込みを含みます。
- ・年齢は、平成31年4月1日現在の年齢です。

種類	I 類 A		I 類 B		II 類	III 類	障害者採用選考(III類)	キャリア活用採用選考	
	事務・技術		一般方式		専門的な職種	事務・技術	事務	事務・技術・専門的な職種	
主な職種			事務・技術・専門的な職種	獣医・薬剤	事務・土木・建築				
主な受験資格	昭和62年4月2日から平成7年4月1日生まれの人(24歳から31歳)	平成元年4月2日から平成9年4月1日生まれで、職種によっては必要な資格・免許を持っている人(22歳から29歳)	平成元年4月2日から平成7年4月1日生まれで、【獣医】獣医師の免許を持っている人【薬剤】薬剤師の免許を持っている人(24歳から29歳)	平成元年4月2日から平成9年4月1日生まれの人(22歳から29歳)	平成5年4月2日から平成11年4月1日生まれで、職種によっては必要な資格・免許を持っている人(20歳から25歳)	平成9年4月2日から平成13年4月1日生まれの人(18歳から21歳)	昭和54年4月2日から平成13年4月1日生まれで、以下のいずれかに該当する人・身体障害者手帳の交付を受けている人・都道府県知事又は政令指定都市市長が発行する療育手帳の交付を受けている人・児童相談所等により知的障害者であると判定された人・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人(18歳から39歳)	昭和34年4月2日以降に生まれた人で、学歴区分に応じた民間企業等における一定以上の職務経験がある人・院修了…5年以上・大卒…7年以上・短大卒…9年以上・高卒…11年以上等職種によっては必要な資格・免許を持っている人(59歳まで)	
試験(選考)科目・方法	第1次								
	①教養試験【事務】(2時間10分)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)【技術】(2時間30分)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)【知能分野】27題必須解答(知識分野)社会事情:3題必須解答(40題必須解答)【論文】(1時間30分)【全区分】課題式(1題必須解答)【専門試験】(2時間30分)高度な専門知識についての記述式【事務】5題中1題選択解答【技術】2題中1題選択解答	①教養試験【技術】(2時間30分)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)【知能分野】27題必須解答(知識分野)社会事情:3題必須解答(40題必須解答)【技術以外】(2時間10分)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)【論文】(1時間30分)【全区分】課題式(1題必須解答)【専門試験】(2時間)職務に必要な専門知識についての記述式【事務】10題中3題選択解答【事務以外】5題中3題選択解答	①教養試験(2時間30分)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)②プレゼンテーションシート作成(1時間30分)都政課題に関するプレゼンテーションシート作成(1題必須回答)	①教養試験(1時間50分)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)②専門試験(2時間)職務に必要な専門知識についての記述式(5題中3題選択解答)	①教養試験(2時間)一般教養についての五肢択一式(45題必須解答)②作文【事務】(1時間20分)課題式(1題必須解答)③専門試験【技術】(1時間30分)職務に必要な専門知識についての記述式(5題中3題選択解答)	①教養試験(2時間20分)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)②作文(1時間30分)課題式(1題必須解答)	①書類選考(事前提出)職務経歴書、エントリーシート②教養試験(2時間)一般教養についての五肢択一式(40題必須解答)③論文(1時間30分)課題式(1題必須解答)④専門試験(1時間)職務に関連する知識についての記述式 ※1(1題必須解答)		
	第2次								
口述試験職務に関連する専門知識及び人物についての個別面接	口述試験主として人物についての個別面接	口述試験プレゼンテーション及び人物についての個別面接	口述試験主として人物についての個別面接	口述試験主として人物についての個別面接	口述試験グループ討議及び個別面接	口述試験プレゼンテーションを含む職務に関連する知識及び人物についての個別面接			
第3次									
		口述試験【事務】グループワーク及び人物についての個別面接【土木・建築】フィールドワーク及びワークショップ並びに人物についての個別面接				口述試験主として人物についての個別面接			
試験(選考)案内発表日	3月8日(木)	3月8日(木)		6月1日(金)		7月20日(金)	6月1日(金)		
申込受付期間	郵送受付期間	4月2日(月)から4月6日(金)まで[消印有効] ※2 ※3	4月2日(月)から4月6日(金)まで[消印有効] ※2 ※3	6月1日(金)から8月6日(月)まで[消印有効] ※2 ※3	6月1日(金)から8月6日(月)まで[消印有効] ※2 ※3	7月20日(金)から8月6日(月)まで[消印有効] ※2 ※3	6月1日(金)から6月29日(金)まで[消印有効] ※2 ※3		
	インターネット受付期間	4月3日(火)午前10:00から4月9日(月)午後3:00まで[受信有効]	4月3日(火)午前10:00から4月9日(月)午後3:00まで[受信有効]	6月1日(金)午前10:00から8月8日(水)午後3:00まで[受信有効]	6月1日(金)午前10:00から8月8日(水)午後3:00まで[受信有効]	7月20日(金)午前10:00から8月8日(水)午後3:00まで[受信有効]	インターネットによる申込受付は行いません。		
第1次試験(選考)日	5月13日(日)	5月6日(日)	5月6日(日)	9月9日(日)	9月9日(日)	9月9日(日)	8月12日(日)		
第1次合格発表日	6月19日(火)	6月6日(水)	6月1日(金)	10月5日(金)	9月28日(金)	9月28日(金)	9月21日(金)		
第2次試験(選考)日	7月4日(水)又は7月5日(木)のうち指定する1日	6月21日(木)から6月29日(金)までの間で指定する1日	6月15日(金)又は6月18日(月)のうち指定する1日	10月17日(水)から10月19日(金)までの間で指定する1日	10月10日(水)から10月12日(金)までの間で指定する1日	10月10日(水)から10月12日(金)までの間で指定する1日	10月13日(土)又は10月14日(日)のうち指定する1日		
第2次合格発表日	—	—	6月26日(火)	—	—	—	10月19日(金)		
第3次試験(選考)日	—	—	7月9日(月)から7月11日(水)までの間で指定する1日	—	—	—	10月27日(土)又は10月28日(日)のうち指定する1日		
最終合格発表日	7月18日(水)	7月20日(金)	7月27日(金)	11月6日(火)	11月6日(火)	11月6日(火)	11月12日(月)		

※1 指定する資格等を有する人に対し、専門試験を免除する区分があります。 ※2 簡易書留で郵送してください。 ※3 持参による申込受付は行いません。



TOKYO METROPOLITAN GOVERNMENT

採用案内 2018

東京都職員採用公式ホームページ

<http://www.saiyou2.metro.tokyo.jp>



本誌に掲載されていない職員の声や職種、イベント情報など、東京都庁について理解を深めることができるサイトです。ぜひともチェックしてください!



東京都人事委員会事務局試験部試験課
〒163-0921 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス21階
電話: 03-5320-6952~4
E-Mail: S9000049@section.metro.tokyo.jp



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用



(29)16
平成30年3月1日発行



HOST CITY

誰もが輝く

「新しい東京」の実現のために。

東京の持続的な成長が、日本の成長を牽引する原動力となる。

その思いを胸に、東京と日本の明るい未来を切り拓くため、

都市間競争を勝ち抜く成長戦略の展開、

東京2020大会を契機としたさらなる成熟都市への取組を進めてきました。

安全・安心な「セーフ シティ」

誰もが活躍できる「ダイバーシティ」

成長を生み出す「スマート シティ」

3つのシティの実現のためには、

都政の現場で培われた知識と経験を積極的に取り入れることが必要です。

目指すは「人が生きる、人が輝く東京」

人に焦点を当てた施策を力強く展開し、

その先に、誰もが輝く「新しい東京」を築きあげていきましょう。

先輩職員から知る東京都の仕事	P03
PROJECT INTERVIEW 01	P08
PROJECT INTERVIEW 02	P11
PROJECT INTERVIEW 03	P14
新規採用職員座談会	P17
CAREER HISTORY 01	P19
CAREER HISTORY 02	P20
局長インタビュー	P21
Q&A 先輩職員が語る! 試験体験談	P23
人事制度	P25
採用試験(選考)実施状況	P26





事務職

小坂 嘉生 Kosaka Yoshio

オリンピック・パラリンピック準備局 スポーツ推進部 調整課
平成27年4月入都 東京都出身 農学部農学科

学生時代から入都まで

学生時代、最も熱を入れて取り組んだのがサークルでのバンド活動です。サークル内には楽器経験者が多い中、私は初心者だったため、ギターを必死で練習したことを覚えています。仲間と喜びを分かち合ったバンド経験は、現在の仕事に対する考え方にもつながっている気がします。大学3年生になり進路を意識し始めたときに、公務員の仕事を持つ「公平性」が自分に合っていると感じました。入都の決め手となったのは、「都庁セミナー」や「都庁ナビゲータ制度」で出会った先輩職員の方々。自分の仕事に自信を持ってキラキラとした表情で話す職員の姿が魅力的に映りました。

現在の仕事

平成28年度に都が実施した世論調査では、週1回以上スポーツを実施する18歳以上の都民の割合である「スポーツ実施率」は、全体で56.3%です。私たちはこのスポーツ実施率を2020年までに世界トップレベルの70%まで引き上げることを目標に、様々な施策を行っています。現在行っている取組の一つが「東京都スポーツ推進企業認定制度」です。スポーツに関する社内外の取組をしている企業を認定し、その取組を広く周知することで、実施率の低い働き盛り世代のスポーツ活動を推進する狙いがあります。企業の方から「スポーツに関心のなかった社員も興味を持ってくれるようになり、社内の雰囲気が変わった」と言っていたこともあり、制度の影響を実感するとともに仕事への励みになっています。

PRIVATE

平日は、職場の同期や学生時代の友人とお酒を飲むことが多いです。今でもサークル時代の仲間とライブをすることもあり、開催が近くなると退勤後にスタジオでギターを借りて練習しています。体を動かすことも好きなので、休日にはジムに行って汗を流すことも楽しみの一つです。東京都は美術館や博物館などの文化施設も多いので、ジャンルを問わず様々な催しに足を運びたいと思っています。

印象深い仕事経験

世界的なスポーツ大会で優秀な成績を収めたジュニア選手やチームに贈られる「東京スポーツ奨励賞」の表彰式を担当しました。この賞は定期的に贈られる賞ではないため、表彰式も突発的に発生します。そのため準備期間も短く、会場の準備や式の内容調整などを短期間で進める必要がありました。大事な表彰式で、ミスは許されません。表彰対象が野球チームだったため出席者が大人数という事情もあり、当日の式の進行の役割分担や動きを決めるのには大変頭を悩ませました。そこで、同僚や上司と式の流れを何度もシミュレーションしながら、誰がどのような動きをするか細かく考えました。その上で、進行の手伝いをしてもらう同じ職場の皆さんや、表彰式の委託事業者の方々と綿密な調整を重ね、無事に式を終えることができました。上司や職場の仲間の協力あつてのことですが、入都当時と比べると役割への理解が深まり、様々な立場の人の意図を推測できるようになったと実感しています。滞りなく式を終えられたことは、仕事への自信にもつながりました。受賞者の皆さんのうれしそうな顔も忘れられません。

都庁の魅力

若手でも広い裁量を持って仕事をさせてもらえる点です。この事業をこうしたい、という思いを形にすることができますし、もちろん行き詰まった時には上司や仲間が相談に乗ってくれます。所属している職場で感じた雰囲気ではありませんが、自主性を持って仕事に臨むことができ、やりがいを感じられる風土は非常に魅力的に感じます。

小林 周史 Kobayashi Chikashi

建設局 北多摩南部建設事務所 工事第一課
平成27年4月入都 新潟県出身 工学部環境社会工学科

土木職

学生時代から入都まで

大学時代は工学部環境社会工学科に所属。主に橋の材料となるFRP材料の研究に取り組みました。元々、道路事業に計画段階から携われる公務員の仕事に興味を持っていたことに加え、日本の首都で働いてみたいという漠然とした思いから、東京都の職員に憧れを抱くようになりました。さらに東京2020大会の開催が決定したことで、東京がますます世界から注目を集めていくと考え、世界的な都市の環境整備に貢献していきたいと思い入都を決意しました。

現在の仕事

多摩地域東部の7市における道路・橋梁・河川の整備及び維持管理を行う北多摩南部建設事務所、私は都市計画道路の設計業務を主に担当しています。具体的には、建設コンサルタントへの設計委託発注とその監督を行い、委託成果の図面・数量計算書をもとに工事の発注金額を積算。その後、工事発注を行っていきます。道路交通を管理する警察や、電気・ガスなどの占有企業者*と関わる機会が多く、他機関との連携・調整にも気を配っています。

道路を新設するためには長い時間と労力がかかります。私が現在担当している道路が完成するのは何年も先のことですが、地域住民の方と道路を利用する人たちの利便性や安全性を考えた設計が必要です。事前の説明会などを通じて地域の方々との情報交換や連絡を大事にしながら、都市環境の再生と生活環境に配慮した道路づくりを目指していきます。

* 道路に施設を設置し、継続して道路を使用している公益企業者のこと。

PRIVATE

休日の楽しみは温泉。気に入っているスポットは奥多摩の秋川深谷です。車を借りてドライブがたら温泉につかることで、日頃の疲れを癒しています。時期によっては残業することもあります。超過勤務の縮減を推進している職場環境なので、効率の良い働き方を心掛けています。事務所の仲間たちとフットサルなどで懇親を深めることも多く、月1回ほどのペースでコートに集まり、汗を流しています。

印象深い仕事経験

入都後の2年間は管理課に所属し、窓口業務や電話対応が日常業務の多くを占めていました。道路に関わる様々な問合せを受けましたが、当時は新人で知識が不足していたため、相手が求めていることが理解できていないケースもありました。ある時、管轄外の問合せを受け、即時に的確な返答ができず、住民の方にご迷惑をお掛けしてしまったことがありました。この経験を機に、「相手が何を知りたいのか?」をまず考え、分からないことはきちんと確認し、丁寧に案内することを心掛けるようになりました。やがて、感謝や労いのお言葉をいただけることも増え、日頃から相手の立場で考える習慣が身に付いていきました。これは窓口業務だけではなく、どのような業務でも活かせる力だと思っています。例えば上司からの指示を正しく把握することで、業務の手戻りや行き違いがなくなり、円滑に職務を遂行できるようになります。今後も一つひとつを大切に对应できる人でありたいと思っています。

都庁の魅力

様々な業務で活躍できることが魅力だと思います。例えば土木職の場合、新たな都市づくりの計画策定業務から現場の最前線である工事監督業務まであります。そのような幅広いフィールドを経験できるのは、東京都という大きな組織ならではの醍醐味だと思います。また、若手職員が多く活躍していて、職務中に困ったことがあっても互いに助け合える雰囲気も魅力の一つです。



向井 麻衣子 Mukai Maiko

都市整備局 都市づくり政策部 開発企画課
平成26年4月入都 愛知県出身 工学部デザイン工学科

建築職

学生時代から入都まで

学生の頃は、ホテルでの接客業を中心に、歯科医院やイベントスタッフなど、様々なアルバイトに明け暮れる毎日でした。アルバイトで貯めたお金で、建築の勉強も兼ねてスペインやニューヨークなどの都市を訪れ、有名な建築物や街並みの美しさに魅了されました。入都の決め手は、説明会などで東京都が携わる建築の仕事の幅の広さを知ったことです。また、女性にとって働きやすい環境が整っていることも魅力に感じ、東京都を志望しました。

現在の仕事

都市再生事業担当として、都市再生特別地区*の都市計画に関わる業務に携わっています。具体的には、民間事業者から相談された計画案をもとに、その計画が都民全体にとって利益を生み、都市の再生に貢献できるかどうかを確認し、都が目指す街づくりに近づけた計画へと誘導していきます。日々の業務は、民間のディベロッパーや設計事務所との打合せや、都市計画審議会に向けた調整、区や庁内の関連部署との調整、資料作成、住民の方からの問合せ対応など多岐にわたります。当初は、事業者を指導する立場にもかかわらず、制度についての知識が追いつかず苦労しました。担当案件が進むなかで、事業者や周辺住民の方など様々な立場の人の意見を聞くことで多くを学び、「この開発が本当に都民の方や利用者にとって利益を生むかどうか」という目線で考えられるようになってきたと思います。

* 都市再生緊急整備地域内において、法律で定められた建蔽率や容積率などの規制を独自に設定して、より自由度の高い建物を建てられる特別な区域のこと。

PRIVATE

平日・休日ともに、比較的家で過ごすことが多いです。友人を呼んで、おしゃべりしたり、映画を見たり、次の旅行の計画を立てたりしています。自分へのご褒美として、年に1度は海外旅行へ。昨年末はハワイ、2年前は北欧へ行きました。旅行先に珍しい建築物があれば、ガイドブックをチェックして見に行くのが習慣になっています。夏休みは、お盆などのピーク時をずらして取ることもできるので、少しでも安い時期に旅行できるのがうれしいですね。



依田 誠子 Yoda Satoko

下水道局 建設部 設備設計課
平成27年4月入都 東京都出身 理工学研究科機械宇宙システム専攻

機械職

学生時代から入都まで

「技術力を持ち、社会を支える仕事ができる人になりたい」と工学部へ進学。学生時代は、宇宙空間と同じ真空状態での接合に関する研究に取り組んできました。卒業後は民間企業に就職し、検査技術に関する仕事に携わりました。専門的な知識を使う仕事にやりがいを感じていたものの、より幅の広い仕事をしてみたいと考えようになったことと、ライフ・ワーク・バランスを大切にしたいという思いから、東京都への転職を決めました。

現在の仕事

東京の下水道施設の多くは、高度経済成長期に整備が進められたため、老朽化が進行しており、現在一斉に更新時期を迎えようとしています。下水道局では水再生センターやポンプ場の再構築、合流式下水道の改善等といった重要な課題に取り組んでおり、私は機械設備の設計を担当しています。具体的な業務としては、エネルギー、地球温暖化や震災への対策等に配慮した下水道システムを考え、図面や工事の入札に必要な仕様書の作成、積算等を行っています。下水道局は、23区内では水再生センターを13か所、ポンプ場を84か所所管しており、それぞれ建設された年代や立地、規模により、異なる特徴を持っています。その点に留意して設置する設備の設計をするスキルはもちろん、下水道設備や関係法令に関する専門知識も求められます。入都して3年経ちましたが、学ぶべきことがまだ多くあると思っています。近い将来、自分が設計した設備が稼働する日にはきっと感動するだろうと楽しみにしています。

PRIVATE

退職後は自宅で夕食の準備や翌日のお弁当を作るなど家事をしている日が多いですが、時には職場の仲間や都庁の同期と食事に行くこともあります。私の職場は若手の職員が多く、仕事に関する相談もしやすい雰囲気です。また、旅行が好きなので夏休みや連休を利用して国内・海外問わず出かけたいです。見知らぬ土地への観光は新鮮な気持ちになれますし、リフレッシュになっています。

印象深い仕事経験

入都後の2年間は水再生センターの設備管理を担当する部署に所属し、運転業務や保全業務に携わりました。水処理の工程と使用している機器の役割について深く学ぶことができ、その経験が印象に残っています。例えば設備に不具合が発生した場合、先輩職員とともに現場に急行し、原因究明と復旧作業を行います。先輩職員たちは皆ベテランで、データから機器の状態を正確に把握し、過去の経験に基づいて適切な対応を施していく姿から多くのことを学びました。また、上司、先輩職員たちから「設備に関わる設計を行う際は、現場が維持管理する上で運用しやすいものになるよう考えるべきだ」と指導を受けてきました。この考え方は設計を担当する立場になった今、非常に大切だと実感できています。「現場を大切に」という初心を忘れず、今後の業務に取り組んでいきたいと思っています。

都庁の魅力

都の機械職は、下水道局以外にも財務局や環境局など様々な職場で活躍しています。また、都の仕事は事業規模が大きく、若手でも大きな事業に主体的に取り組むチャンスがある一方で、現場の最前線で経験を積むこともできます。私は、下水道局で運転や保全業務といった高度な専門知識と技術力を身につけ、自分の成長を実感することができました。さらに、キャリアプランを選択できるため、自分に合った働き方をすることができるのも魅力の一つだと思います。

PROJECT INTERVIEW

01

事務

中小企業のビジネスチャンス を創出する、国内最大級の展示会。 産業交流展 2017プロジェクト。

2017年11月15日から17日までの3日間、「産業交流展2017」が開催された。産業交流展は首都圏の中小企業を対象とした、異業種が集まる総合的な展示会である。都は、様々な機関や自治体等と連携して、この国内最大級のイベントを開催している。1998年の初開催から20周年を迎えた2017年は、884の企業等が出展し、3日間で5万名以上が来場した。産業交流展2017の開催へ向けて取り組んできた3名に話を聞いた。

産業交流展 2017プロジェクト

プロジェクトを担う職員たち

産業交流展運営

渡辺 忠行 (事務)
Watanabe Tadayuki 産業労働局 商工部 調整課 課長代理

平成15年入都。理工学部。民間メーカー勤務後、東京都のフィールドの大きさに魅力を感じ転職を決意。下水道局を経て、平成22年に産業労働局へ異動し、中小企業振興の施策に取り組む。平成29年から現在の部署にて勤務。



産業交流展の開催により 中小企業の販路開拓を後押しする。

都が毎年主催している産業交流展の企画・運営を担当し、900近い出展企業や多くの関係者との調整業務に取り組む。産業交流展をきっかけに様々なビジネスチャンスを提供することを目指す。

熊坂 士 (事務)
Kumasaka Akira 産業労働局 商工部 調整課

平成23年入都。経済経営学類。以前から抱いていた「世の中の役に立ちたい」、「人のために働きたい」という想いに動かされ東京都を志望。産業労働局農林水産部、商工部経営支援課を経て、平成29年に現在の部署へ異動。



恒例の企業出展の調整に加えて 新規企画の立ち上げに取り組む。

産業交流展の開催に関わる全般を担当。特に注力したのは新規企画の立ち上げで、募集から実施までのスキームを作成。職員たちの意見を集約しつつ、関係者と連携を深めることで、参加企業の目標数を無事にクリアした。

世界発信コンペティション

矢吹 真琴 (事務)
Yabuki Makoto 産業労働局 商工部 創業支援課

平成24年入都。文学部。学生時代のアルバイト経験を通して、社会に貢献できる仕事がしたいと思うようになり入都を決意。産業労働局城東職業能力開発センター、観光部などを経て、平成29年に現在の部署へ異動。



企業の開発意欲を喚起する コンペティションを実施する。

企業の今後成長が見込まれる取組に目を向け、中小企業が開発した革新的で将来性のある製品・技術、サービスを表彰する「世界発信コンペティション」を通じて、産業の活性化、雇用創出などに取り組んでいる。

支援
実務
・
折衝

全体
運営
・
管理

全体
運営
・
実務
・
折衝

電気職

学生時代から入都まで

大学時代は、電気工学を専攻し、電気分野と情報分野について学びました。実験や課題に追われながら、塾講師のアルバイトやサークル活動に励む多忙な毎日でした。特に、サークルで始めた3DCG制作は、友人と共同でCDレーベルを作成したりイベントに参加したり、趣味としてかなり熱中して取り組みました。元々公務員志望でしたが、東京都に電気職として勤めている大学の先輩や友人が活躍している姿を見て、ますます興味を持ちました。電気職として一つの分野のスペシャリストを目指すより、様々な分野の業務に携わっていきたくと考え、入都を決めました。

現在の仕事

私が所属する電気総合管理所は、都営地下鉄の駅全体の改修やホームドアの設置、冷凍機、変電所の更新など大規模工事を扱う事業所で、工事の施工監督に関わる業務全般を行います。東京2020大会に向けて、お客様の安全と安定輸送をより向上させるため、非常に重要な工事を行っています。私は現在、変電所設備の工事を担当しています。具体的な業務の一つとして、電力貯蔵設備の設置工事があります。通常時には電車線電圧の安定化や省エネに効果があり、停電時には電力確保の効果が期待できる重要な設備です。変電所は特別高圧や直流高圧など特別な設備もあり、新しく学ぶことも多いです。また、夜間工事における施工立会業務も大切な仕事です。電車の軌道上での作業や、目で見ることができない電気の作業は命に関わる危険が多く、厳重な安全管理が欠かせません。責任の重さに身の引き締まる思いです。

齊藤 壮馬 Saito Soma

交通局 車両電気部 電気総合管理所
平成26年4月入都 神奈川県出身 工学部電気工学科

印象深い仕事経験

入都して2年目に、車両電気部電力課で駅の電気設備設計を担当しました。事前調査を行った際には歩くだけでも一苦労するほど、複数の路線が乗り入れる大きなターミナル駅でした。照明設備や空調設備の電源に係る設計積算業務を行いました。とにか膨大な量でした。建設関係の部署や空調・ポンプ設備を担当する部署など対内外の調整が多く、工事図面作成から積算、契約に至るまでに必要な業務は初めての経験であり、非常に苦労しました。だからこそ当時の上司や先輩に相談を重ね工事契約まで到達したときは、大きな達成感を得ました。設計を行った駅は学生の頃に頻繁に利用しており、仕事に関わることができるというのも印象深い経験でした。全ての工事が完了するまで数年かかるため完成はまだ先ですが、非常に楽しみにしています。並行して設計を担当していた駅手洗所改修工事が完了したときは、休日を使って現地に見に行きました。自分の仕事が形として残り、多くの人に利用されることもこの仕事の面白さだと実感しました。

都庁の魅力

鉄道や上下水道、庁舎管理、情報システムまで、電気職として関わることができる仕事の幅が広く、様々な業務に携わるチャンスがあります。メディアで話題になるような日本全体に影響を及ぼすスケール感のある仕事に、技術職として取り組めることも刺激的で、やりがいも大きいです。大規模な案件を扱っているので大変な面もありますが、その分プライベートを充実させるなどメリハリをつけた働き方ができることも魅力です。

PRIVATE

夜勤明けは、カフェ巡りをしてコーヒーと甘いケーキを食べることで気分転換しています。また、自分のスキル向上のため、終業後など空いた時間に資格取得のための勉強をしています。先日、2年かけて電気の資格を無事取得することができました。現在は情報関係の資格取得に向けて取り組んでいます。休日は学生時代に行っていた3DCG制作にも再チャレンジしています。趣味だからと手を抜くことなく日々レベルアップすることを心がけています。



高い技術を持つ企業の 販路拡大の機会を提供する

渡辺：産業交流展は、首都圏に事業所を有する中小企業などの優れた技術や製品を一堂に展示する国内最大級の展示会です。開催の目的は、中小企業の販路拡大や企業間連携の実現、情報収集・交換などのビジネスチャンスを提供すること。2017年で20回目の開催を迎え、最新技術・サービスを披露する場として定着し、幅広い業種の方々にご来場いただいています。

熊坂：私は、この一大事業の開催へ向けて多くの調整業務を担当しました。出展する中小企業の数は900近くあり、また、産業交流展という大規模なイベントを開催するに当たっては、都庁内外に多くの関係者がいます。見どころの多い展示会を目指し、全体の構成を考えました。

矢吹：私が担当する世界発信コンペティションは、革新的で将来性のある製品・技術、サービスを創造した都内の中小企業等の支援を目的に毎年開催しています。受賞企業は産業交流展メインステージで表彰され、メディアで紹介されることもあります。中小企業の中にはせっかく良い製品やサービスを開発しても自社の力だけで広めていくのが難しいケースも多く、コンペティションでの表彰を通して世の中での認知が進んでいくことを目指しています。

渡辺：私と熊坂が所属している調整課では、産業交流展の企画・運営など全体の執行管理を担当しています。開催初日に注目を集めた世界発信コンペティション表彰式の募集から審査、受賞企業の支援などを担当しているのが創業支援課の矢吹さんです。

新企画の立ち上げや出展価格改定など 前例のない課題に取り組む

矢吹：コンペティションは半年以上の時間をかけて3次審査まで行います。2次審査後に企業訪問を行い、ヒアリングした内容をまとめるのですが、客観的で正確な報告書にする必要があり、責任の重さを強く感じました。世に出たばかりの製品の説明は難しく感じることもありましたが、実際に見て感じた素晴らしさを可能な限り伝えられるよう、一社ずつ真剣に取り組みました。

熊坂：産業交流展は歴史が長いという強みがある一方で、企画に関しては成功事例を踏襲し新鮮味に欠けてしまうというジレンマがあります。私は新しい切り口でアピールできる場が必要と感じ、これまでの出展分野に加え「X-Tech」「働き方改革」「地方創生」といった、昨今注目されている分野を集約した「テーマゾーン」を設置しました。

渡辺：それに加えて、今年度は出展料の改定を行ったため、例年よりも交渉・調整業務が増えることになりました。私は前年度まで経理担当を務めていたのですが、今回はその経験を活かしながら限られた時間の中で関係者と議論を重ねました。おかげで大きな問題もなくスムーズな調整を行うことができたと思っています。

100名もの職員たちと 展示会の意義を共有しながら運営する

渡辺：産業交流展の主役は中小企業ですが、大手企業にもバ



イヤーの立場で参加していただいています。この大手企業への出展依頼は私たち担当者的人数だけでは対応しきれないため、他の職員と共にチームを編成することで解決していききました。

熊坂：実際の運営に当たっても、自分を含めた担当の4名以外に、各課から100名ほどの職員が協力してくれました。大勢の方へ依頼を行う際、つい作業の指示出しに終始してしまいがちです。そこで、一人ひとりへ担当の業務だけを説明するのではなく、展示会全体の中での役割を伝えることで、その業務の意義を理解し、モチベーションを高く持ちながら動いてもらえるよう心掛けました。

渡辺：関係者間で「言った、言わない」などの誤解が生じないように、私たち調整課がきちんと間を取り持つことは非常に大切です。そのため、打ち合わせた内容を文書化して経緯を残すなど、きめ細やかな対応を心掛けました。これは都の職員同士だけでなく、委託先の事業者や他の自治体などとの連携においても同じです。

矢吹：私も職員同士の連携の大切さを感じています。現在、2018年のコンペティションへ向けて新たな企業へのPR活動を開始しています。3か月で100社ほど伺う予定ですが、一緒に取り組んでいる上司が、自分とは異なる視点で企業を見ていることが参考になっています。

熊坂：会場ではビジネスセミナーも開催しましたが、講師の選定



に当たっては、委託業者や上司からの提案、意見をまとめながら独自に調査を進めていきました。そのかいあって招聘した講師のセミナーが満員御礼になったのはうれしかったですね。

矢吹：私は調整課の職員ではありませんが、どの部門の業務においても関係者をまとめて一つの方向に取組を進めていく力は欠かせないと入都以来感じています。特に大きな企画の場合、関係者の人数が多く、調整事項は増えていきます。携わる全員が気持ち良く仕事を進められるよう、互いの要望をできる限り叶えられる状態を目指して取り組んでいきたいと思っています。

首都圏の中小企業が元気になれば 日本の経済も活性化していく

熊坂：無事開催を終え、参加した企業から「商談の機会を多くとれました」「他企業とのパイプができました」という評価の声も届いています。これからも産業交流展を通して、様々なビジネスチャンスにつながり、優れた製品や技術を有する中小企業が世界へ羽ばたくきっかけになればと思っています。

矢吹：コンペティションの受賞をきっかけに、多くの企業で認知度の向上や信用力の強化といった効果が出ています。もちろんそれだけが理由ではないと思いますが、受賞後、株式上場を実現した企業もあります。私自身、コンペティションを通じて東京の中小企業の強さ、ユニークさを実感することができました。今後もこれらの魅力を国内外へ発信し、東京の産業基盤を支える中小企業の更なる発展につなげていきたいです。

渡辺：企業の展示会はいくつも開催されていますが、産業交流展ほど大規模のものは珍しく、参加する企業の業種もバラエティ豊かです。異業種の知見が交わることで新しいアイデアが生まれる可能性も秘めています。都内の企業数の99%を占める中小企業が元気になれば、東京の経済はさらに活性化されます。今後とも中小企業にとって数多くの商談につながる効果的な展示会になるよう、広報や企画などを工夫していきたいです。

2018年も東京ビッグサイトでの開催が決まっている産業交流展。すでに新しい展示方法や来場者の動線などについての検討が熊坂らによって始まっている。世界発信コンペティションも次年度の募集に向けて活動が行われるなど、中小企業の支援は日々続けられている。

PROJECT INTERVIEW 02

津波被害から人命を守る。 島しょ地域の防災プロジェクト。

土木
建築

2011年の東日本大震災を受け、首都直下地震・南海トラフ巨大地震等による被害想定が全面的に見直された。特に、伊豆・小笠原諸島などの島しょ地域では、津波による被害がこれまでの想定を大きく上回ることが判明。いつ起こるか分からない災害から、島民をはじめ、港で働く人々や観光客の安全を守るため、スピード感を持って対策を進める必要がある。こうしたことから島の玄関口である港湾において、津波対策の避難施設を整備するプロジェクトが始動した。



完成イメージパース

島しょ地域防災プロジェクト

プロジェクトを担う職員たち

津波避難デッキ建築

藤井 元希 (土木)
Fujii Genki 港湾局 離島港湾部 建設課

平成25年入都。工学部社会環境工学科。入都は、公共の都市づくりに関わりたいという思いから。総務局三宅支庁土木港湾課を経て、現部署へ異動。



島民が日常的に親しめる施設を目指す。

津波避難通路の設計を担当。対象とする津波の高さや到達時間を十分に考慮し、最適な通路の構造形式を検討。加えて島民の日常利用を想定した設計を行う。

設計

津波避難タワー建築

岡村 卓麻 (建築)
Okamura Takuma 港湾局 港湾整備部 施設建設課 主任

平成27年入都。工学部建築学科。民間の企業で集合住宅の設計を8年間手掛ける。より多くの人が使う公共の建物づくりに魅力を感じ転職。



島しょ地域の防災関連施設を設計する。

プロジェクトの第一弾である大島・岡田港の防災施設には、平成29年4月から関与。現在は、他島の船客待合所や日除け施設などの設計も担当。計画部署や支庁と連携し、地元の要望を踏まえた上で設計をまとめる。

設計

吉川 和樹 (土木)
Yoshikawa Kazuki 総務局 大島支庁 港湾課

平成26年入都。工学部都市工学科。設計から現場監督まで、多方面において土木の仕事に携われること、世界に対する発信力があることから入都。



スムーズに施工が進むよう現場を監督。

津波避難通路整備において、効率的な施工が進められるよう現場を監督。島民からの問合せも担当。何か問題があれば、利用実態の調査など課題解決のための役割も担う。

工事管理

小嶋 崇 (建築)
Kojima Takashi 港湾局 東京港建設事務所 施設整備課 主任

平成5年入都。建築系専門学校。教師の薦めもあり入都を決意。ライフ・ワーク・バランスの点から、長く働きやすい職場だと感じたのが入都の理由。



津波から島民を守る避難施設を建築する。

津波避難施設の建築工事監督を務める。月に数回は現場を訪れ、進捗及び施工状況を確認、指示。工事を進める上で不測の事態が起きた場合は、関連する各部署と連携して対応策を練る。

工事管理

災害から島民の命を守るため 前例のない津波避難施設を作る

藤井：東日本大震災後、四方を海に囲まれた島しょにおける津波災害に危機感を抱いた都は、東京都防災会議の地震部会において、島しょ全域で津波が到達するまでの時間を見直しました。その結果、海溝型*1の地震である“元禄型関東地震”が起きた場合、岡田港では、3分40秒で最大2mの津波が、“南海トラフ巨大地震”が起きた場合、約30分後に5mを超える津波が来るという予測が出ました。

岡村：岡田港は、伊豆諸島の中でも最も利用者数が多い港。島しょ地域防災プロジェクトの第一弾として、津波避難施設を建設することになり、平成25年に基本設計が始まりました。また、船客待合所が老朽化していたことから、津波避難施設と一体の建物として整備されることになり、それに伴い、バリアフリー対応など施設機能も拡充されることになりました。

吉川：元禄型関東地震が起きた場合、2分間の強い揺れが続くため、逃げる時間はたったの100秒です。乗降客や運航事業者職員など、岸壁全面にいる避難対象者が、どこからでも避難できるよう、津波避難タワーに併せて、傾斜堤*2式で階段状になった避難通路も同時に作ります。通路とタワーを合わせて1,600人が避難できる大規模な施設です。

*1 大陸側のプレートの下に海側のプレートが潜り込もうとする境界で発生する地震。海の中で起こるため、一般に、直下型地震より津波被害に警戒する必要があります。

*2 防波堤の一種。石材やコンクリートブロックを海中に投下し、台形上に成型したもの。水深の浅い港湾などで使用される例が多い。

島しょの港特有の問題に直面 現状に合わせ柔軟に対応

藤井：今回のプロジェクトは、津波対策として早期に完成させることが重要でした。多くの人が安全に避難できる施設とすること、さらに建設コストをできるだけ抑えることなどを考えると、設計をするに当たって条件は厳しかったと思います。

吉川：実際の工事に伴い、港の動線が変わることで駐車場が利用しにくくなったという住民の方の声もありました。年度ごとに工事に使うスペースを割り出し、駐車できる領域を確保して調整するなど、きめ細かい対応が求められました。

小嶋：津波避難施設の基礎工事では、当初想定していた工程では工事を進めることができませんでした。岡田港をはじめ島しょの港は、岸壁に船が着岸しやすいように、昭和30～40年くらいから少しずつ継ぎ足しながら埋め立てられています。中には既設の構造物などが埋設されている部分もあり、通常の地盤ではない部分に基礎杭を作らなければいけないという、難しい状況だったので。

岡村：島しょの場合、構造物を構築する地盤の状況から、設計においても難しい部分が多いですね。同じ埋立といっても東京湾と土壌も違う。設計は、設計事務所に委託して進めますが、島の仕事に慣れている会社ばかりではありません。土壌などの状況を伝えて、一緒に調べながらやる必要があります。

小嶋：基礎杭工事を進めるにあたって、始めに想定していた方法で杭を建てるのが難しいことが分かり、現状の地盤に合わせ



岡村：都には、小笠原諸島など、他にも数多くの島があります。今回の津波避難施設の設計が、都の島では第1号ですが、現在も他の島の津波避難施設の設計がいくつか進んでいます。今後ますます、各部署間の連携が重要になってくるのではないのでしょうか。

島民を守るという使命 都の職員としての責任感

吉川：大島で生活して2年。住民の方々にとって、港湾施設が非常に重要な施設であることを実感しています。港は、定期船だけでなく生活物資を載せた貨物船が着くなど、生活に不可欠なものです。安心して利用してもらえるような施設を作らなければならない、と日々感じています。

岡村：私も、住民の方々が玄関口としての港をすごく重要視しているのを感じました。例えば、船客待合所の設計をする際には、実際に売店や券売の仕事などそこで働く人たちの意見をヒアリングします。住民の方々の要望を直に聞くと、施設に対する期待が感じられ、それにしっかりと応えなければいけないという気持ちになりますね。

吉川：プロジェクトを通じて、住民の方との距離も近くなりますよね。私も工事の節目に、「ありがとう」と声をかけてもらえたことがあり、とてもうれしかったことを覚えています。

小嶋：工事が始まってから1年近く、毎月数回大島に通っています。実際に、島へ行って港の地形を見てみると、もしここに津波が来たら大変なことだ、という思いが強くなってきました。住民の方の安全に役立つ大切な建物を作っている、という責任を感じます。

藤井：今回、津波避難施設の設計を担当しましたが、この避難施設には、住民の方々の命を守るという大事な役目があります。設計の考え方にミスがあれば、避難してきた人々を危険にさらしてしまうプレッシャーを感じましたが、それは裏を返せば仕事のやりがいにもつながっていると思います。

島しょ地域の防災プロジェクトには、正確さとともにスピードが要求される。住民の方々の更なる安全の確保に向け、プロジェクト関係者は今日も汗を流している。



検討しなおし、工法を変更しました。島しょでの基礎工事の経験が豊富な土木職の職員からも助言をもらったことが、大変効果的だったと思います。

すべての関連部署を集めた 整備調整会議

藤井：岡田港の場合、他の港とは違って、津波からの避難としての役割だけでなく、船客待合所や交流施設としての役割も兼ねているのが特徴です。災害のための施設とはいえ、住民の方々や観光客にとって日常的に使いやすい施設になるよう設計しています。緊急時はもちろん、普段の生活においても地域のランドマークとして、島しょ振興にも役立ってくれるとうれしいです。

小嶋：建物が大規模かつ複合的な分、通常の施設より工事も複雑で、様々な職種との連携も必要です。建物付帯設備は機械職や電気職、周辺外構整備は土木職、さらには将来この施設を管理する事務職など、各担当者との円滑なコミュニケーションを図ることも、工事を進める上では重要でした。

岡村：3か月に1度程度、関係部署の管理職から担当者までがそろって行う整備調整会議によって、意思決定もスピーディに進められたのではないのでしょうか。

藤井：通常の事業だと、多くの場合は担当者同士が綿密に打ち合わせて内容をしっかり詰めてから上司へ……と段階を踏みますが、本プロジェクトではそれに加え、全担当者が集まる会議があったことで、完成するまでの課題を積極的に共有し、協力体制をより強化して、スムーズに進められましたね。

吉川：駐車場のときもそうですが、会議の場に直接資料を持参して、現場の立場から課題をあげることができたのもよかったです。解決策を提案し、早めに現場に反映することができたと思います。

PROJECT INTERVIEW

03

世界一の環境先進都市・東京を目指す。 スマートエネルギー都市プロジェクト。

機械
電気

東日本大震災後のエネルギー需給をめぐる問題、気候変動対策、資源制約の高まりや大気環境改善、生物多様性の保全など、都が取り組むべき環境政策課題は多い。東京の二酸化炭素排出量はオーストリア1国分に相当し、先進的な環境施策を積極的に展開していく必要がある。都では、事業所や家庭などを対象に、省エネ対策への取組を長期ビジョンで進めており、2016年から、より環境負荷の低い水素エネルギーの導入プロジェクトもスタートした。世界をリードする、スマートエネルギー都市の実現を目指して動きだしている。

スマートエネルギー都市プロジェクト

プロジェクトを担う職員たち

中小規模事業所省エネルギー支援

福澤 克二
Fukuzawa Katsuji

(電気)
環境局 地球環境エネルギー部
地域エネルギー課 課長代理

平成23年入都。工学部電子工学科。環境局総量削減課で大規模事業所の省エネ対策に取り組み、平成28年から現所属へ。



CO₂の削減を目指し、
中小規模事業所を総合的にサポート。

中小規模事業所を対象に、省エネ診断、改善策の提案を行う。電気設備を中心に設備の最適化を推進し、民間の省エネビジネス事業者の登録・紹介制度の運営、省エネ効果の調査・分析やセミナー開催など多岐にわたる支援を実施。

山田 慎太郎
Yamada Shintaro

(電気)
環境局 地球環境エネルギー部
地域エネルギー課

平成25年入都。生産システム工学専攻。前部署では、都の廃棄物埋立処分場で設備の保守・管理に携わり、平成28年から地域エネルギー課へ異動。



中小規模事業所を対象に、
省エネへの意識改革を目指す。

地球温暖化対策報告書制度の運用などを担当。CO₂排出量を算出する報告書作成ツールの普及も行う。報告書からデータを集計・分析し、セミナーにて情報を事業所へフィードバック。地球温暖化対策に向け、意識の底上げに取り組む。

次世代エネルギー推進

井元 俊太
Imoto Shunta

(機械)
環境局 地球環境エネルギー部
次世代エネルギー推進課 主任

平成22年入都。工学部機械工学科。港湾局を経て、平成28年から環境局へ異動。平成29年から次世代エネルギーとして期待が高い水素エネルギー推進に携わる。



水素社会の実現に向けて
取組を推進。

水素エネルギー普及に向けて、認知の拡大活動、燃料電池自動車や水素ステーション整備のための補助金制度策定などを担当。水素エネルギーを、都民の生活の様々な場面で利活用してもらえるような社会の仕組みづくりを進める。

水素
エネルギー
推進



岩谷産業株式会社提供

深刻化する地球温暖化問題に 長期的なビジョンを掲げる

福澤：都は、2006年に都市戦略である「10年後の東京」において、CO₂などの温室効果ガスの削減目標を発表しました。現在は、「スマートシティ」実現のための一環として「2030年までにエネルギーの消費量を2000年度比38%削減、CO₂排出量を30%削減」という目標を掲げ、取組を進めています。

山田：2010年にはキャップ&トレード制度（大規模事業所向けにCO₂排出量の削減を義務化する制度）が導入されました。私と福澤さんが担当している中小規模事業所*向けの「地球温暖化対策報告書制度（以下「報告書制度」）」の取組も2010年から始まっています。

井元：エネルギー消費量やCO₂の削減が求められる一方で、エネルギーの安定供給も大きな課題です。もともと天然資源に恵まれない日本では、エネルギーの大部分を海外に依存しているため、新しいエネルギー開発の重要性が高まっています。このような背景にあり、水素の活用は大きな可能性を秘め、次世代のエネルギーとして期待されている先進的な取組です。

山田：都では、「スマートシティ」の8つの政策の柱の一つとして、スマートエネルギー都市を目指しています。LED照明の普及や再生可能エネルギーの導入といった課題に取り組み、地球温暖化対策を推進していく計画です。各部署がそれぞれの担当業務を通して、共通の目標に向かって進んでいます。

* 1事業所あたり、1年間のエネルギー使用量を原油換算して、1,500キロリットル未満の事業所のこと。

省エネ対策への意識改革 水素エネルギー普及への壁

福澤：都内の中小規模事業所の数は66万事業所に上り、情報を発信していくことの難しさを感じます。省エネに取り組むための資金やノウハウ不足なども課題ですが、まずは、事業者の意識改革が重要です。より有効な対策などの情報を積極的に発信していくことが、意識を変えていくことにつながるのではないかと考えています。山田さんが担当している報告書制度も大きな核になっていますね。

山田：実際の提出数は、まだ3万事業所程度です。省エネ診断や補助制度などの案内をしながら、報告書を提出してもらえるように認知度を高めている段階です。かなり取組が進んでいる事業所もあれば、補助金制度活用のために提出している事業所もあり、意識のレベルは様々です。

福澤：省エネ対策の余地があることに気づき、メリットを把握してもらえることも大事です。効果的に利用してもらえるように、省エネ診断業務の見直しを行い、診断実績や提案内容、効果を分析して、最新の動向も踏まえた省エネルギー診断業務マニュアルの改訂に取り組んでいます。

山田：事業者の意識改革策の一つとして「低炭素ベンチマーク」という省エネレベルを見える化し、評価できる指標を作成、公開しています。経営者の方に、省エネが経営課題の一つであることを理解していただくことも重要だと感じています。

井元：水素エネルギーについては、2020年までに水素ステーションを35か所、燃料電池自動車を6,000台に増やすことが目標です。

現在の水素ステーション整備箇所数は14か所。目標を達成するためには、燃料電池自動車の認知や普及を進めること、水素ステーションをつくるための土地を確保することなどが課題となっています。

山田：新しい取組のため、将来の見通しが立ちづらいことも原因でしょうか。

井元：そうですね。水素ステーションの設置には、高額な先行投資も必要です。安心して参入してもらえるように、2020年までの継続した補助制度の創設をはじめ、ステーション事業者や自動車メーカーなどを一同に集めた場で、燃料電池自動車や燃料電池バスの導入計画の見通しを示しました。財源に対する支援と需要側の見通しを示すことで、更なる参入を促しています。土地の確保についても、民有地だけでなく公有地を利用できるよう関係部署に交渉し、複数の土地の利用の見込みが得られています。

技術職として専門性を活かし 課題へと取り組む

山田：年間のエネルギー使用量が、3,000キロリットル（原油換算）以上の事業者には、環境確保条例により報告書の提出を義務付けています。このような事業者の方々を中心に、現地調査を行い改善を促すのも私たちの仕事です。実際に、電気設備や変電室を見て数値を確認し、省エネ対策への取組状況を調べ、必要があれば照明や空調の使い方に関する技術的なアドバイスも行います。また、取組が進んでいる企業に対しては、さらに進んだエネルギー対策として、例えばエネルギーの監視設備の提案をすることなどもあります。適切な指導やアドバイスをする際には電気職としての知識が必要になります。

福澤：省エネルギーの分野では、電気設備や空調設備、給排水衛生設備など、多岐にわたる設備を適切に運用し、エネルギーロスを抑えることも重要です。そのため設備の使用実態をしっかりと把握していくことが大切です。各設備の最新動向を踏まえた上で、様々な業種の専門家から情報を収集し、技術的な検討を進めることで「設備の最適化」対策を行います。幅広く省エネルギー対策全体を俯瞰しながら、技術的な考えをベースに、支援のための企画や分析調査をするのも電気職としての役割です。

井元：車やバスもそうですが、水素ステーションも機械設備。整備に向けて検討を進める上で、機械職としての知識や技術力は役



立っていると思います。例えば、水素ステーションの図面を作成する際、機器の仕様や配置の検討において、機械技術の知見を活かすことができます。また、水素ステーションは高圧ガス保安法の法規制に沿って整備されますが、高圧ガスは機械系の分野に当たるため、専門性が発揮できます。現場で水素を扱うためには、高圧ガス製造保安責任者という国家資格が必要です。事業者と専門的な意見交換ができるよう、私もこの資格を取得し、技術力の向上に努めています。

スマートエネルギー都市を実現し 次世代へと引き継いでいく

福澤：エネルギー消費量並びにCO₂排出量削減の大きな目標に向かって、それぞれの分野で、確実に取組を進めていくことが重要です。2014年度末には、2000年度比エネルギー消費量19%削減を達成していますが、継続して地道な努力を重ねていく必要があります。具体的な数値目標を達成することが、東京が環境都市として世界のモデルになっていくための布石になると考えます。

山田：将来的には、エネルギーを極力使わないで、今の快適さを維持していけるのが理想です。今後も、報告書作成ツールをさらに改修して使いやすいものにしていくなど様々な施策を通して、事業者の意識向上に努めていきたいです。また、もっと効果的な省エネ対策の提案ができるよう学びながら、エネルギー対策を先導していく立場としての自覚を強く持ちたいと思います。

井元：水素社会が実現することで、排気ガスがクリーンになり、エネルギーの安定供給に役立ち、経済成長にも寄与している未来を思い浮かべます。それは、都民にとってかけがえのない財産になると思います。環境施策は、答えが出るまで長い年月がかかるものですが、次の世代にとって明るい未来となるように、使命感をもって日々取り組んでいきたいです。

水素社会をはじめとして、再生エネルギーや太陽光発電の活用、LED照明化など、様々な方向から省エネ対策を進めることが「スマートシティ」の実現につながる。世界一の環境先進都市・東京への取組は今日も続いている。



新規採用職員座談会 *Cross Talk*

佐野 真弓 Sano Mayumi
(栄養士)
教育庁 江東区立第四砂町中学校

家政学部栄養学科管理栄養士専攻。給食の献立作成から調理指示、衛生管理や食育まで、学校給食の現場で日々子供たちの成長を支える。

田中 聖樹 Tanaka Masaki
(電気)
水道局 金町浄水管理事務所 技術課

工業高等学校電気科。技術職員として、金町浄水場において、送配水管理や、受変電、ポンプ設備等の運転管理を行っている。

南 和紗 Minami Kazusa
(福祉)
福祉保健局 足立児童相談所

保健医療福祉学部社会福祉学科。不登校などに代表される、子供が抱える学校や家庭での問題を解決するため、子供やその家族と向き合う日々を送る。

川邊 健太 Kawabe Kenta
(事務)
中央卸売市場 事業部 業務課

工学資源学部材料工学科。地方卸売市場の健全な運営や公正な取引を確保するため、開設者及び卸売業者に対する指導・監督業務を行う。

「自分自身の成長のために東京でチャレンジ」田中 「子供とふれあえる環境で学校給食の運営を」佐野

— はじめに皆さんが入都を決めた理由を教えてください。

田中 高校の先輩が都の下水道局に勤務していて、その先輩から都での仕事がダイナミックだという話を聞き、採用試験を受けました。他の自治体と、どちらにすべきか悩みましたが、最終的には自分自身の成長のために東京でチャレンジすることにしました。

佐野 学生時代から、学校給食の運営に携わるのであれば、「子供とふれあえる環境で」という強い思いがありました。都内の小中学校は、給食実施率が高く、ほとんどの学校が自前の給食室で調理を行う「自校式給食」という形をとっていたので、都を選びました。

南 昔から子供が大好きで、将来は子供と接する仕事に就きたいと考えていました。その後、社会福祉学を学ぶ中で児童を取り巻く環境の現状を知り、児童の生活環境を少しでも良くしたいという思いから、児童相談所で働くことを視野に東京都への就職を考えました。

川邊 都が発行している「採用案内」などから、都職員がとてもいきいきと、やりがいを持って働いている様子が伝わり、職場として東京都を意識するようになりました。地元の自治体と悩みましたが、田中君と同様、大規模事業や多方面にわたる業務に取

り組むことができる東京都で、より成長したいと考えて入都を決めました。

「入都後に様々な研修が用意されています」南 「自分は決して一人ではない」佐野

— 入都前にどんな不安を感じていましたか？

川邊 学生時代は材料工学を勉強していました。ところが、配属先は中央卸売市場の事業部。地方卸売市場の指導や監督を任されることになりました。自分の専門分野と担当職務がかけ離れていたため、入都前は正直不安になりました。でも、都庁では、新任職員には必ずチューターと呼ばれる先輩職員が指導職員としてついてくれます。だから、仕事の進め方などわからないことも気軽に聞くことができました。

南 ずっと目指してきた仕事とはいえ、社会人1年目の私に児童相談所の児童福祉司が務まるのか、こんな大変な仕事が可能なのか不安になりました。でも、入都後に様々な研修が用意されていたり、職場の先輩方に相談したりしながらケースワークを進めることができたので、少しずつ自分らしさが出せるようになった気がします。田中さんは交替制勤務ですよね。その辺の不安はありませんでしたか。

田中 正直、最初は不安がありました。入都前は、都民の暮らしを支える都庁の職務は忙しい上に、職員各々が自分の仕事を一人でこなしていくというイメージを持っていたためです。でも、実際に

都職員として働いてみると、それが先入観だったとわかりました。交替勤務の引き継ぎはもちろん、常に他の部署とも連携して仕事を進めるなど、都の業務はチームで行います。おかげで失敗を怖れず、職務に臨むことができました。

川邊 私も現場における先輩の存在は大きかったですね。職務に欠かせない専門知識を実務ベースで教えてくれたり、知識習得のための資料を準備してくれたりと面倒見の良い先輩に囲まれたおかげで、仕事の感覚を掴むことができました。

佐野 学校給食の運営を行う学校栄養職員は、基本的に各校に一人の配属となっています。入都前にそのことを知って、大学を卒業したばかりの私が本当に一人でやっていけるのかという不安がありました。でも、前の方や職場の先輩の手厚いサポートもあって、「自分は決して一人ではない」という気持ちが芽生え、そうした不安も解消されました。

「自分にできることから少しずつ指導を開始」佐野 「困難な状況を共有できる人がそばに居ることに感謝」南

— 実際に働いてみて、大変だったことはありますか。

佐野 生徒の中には食の細い子や苦手な食べ物がある子もいて、赴任当初は残菜の多さに戸惑うこともありました。そこで毎日、喫食時間にクラスの様子を見て回ったり、担任の先生や他校の栄養士さんからのサポートを受けたりし、できることから少しずつ指導を始めました。その結果、徐々にですが食べることに意欲的な生徒が増え、残菜も減ってきているなど、手応えを感じています。

南 私はやりたいと思うことは山ほどあるのに、時間が足りなくて着手できないもどかしさを感じていました。一件、一件状況や相談内容が異なるので、しっかりとケース管理を行い、緊急性をきちんと判断したいと考えていますが、まだまだ経験不足のため、不安を感じる場合があります。そんな時はすぐ先輩に相談します。何でも相談できる先輩や何でも話し合える同期がそばに居ることはとても心強いもの。児童相談所の皆さんには日々感謝しています。

田中 私は働き始めた頃は、とにかく設備が大きすぎて、学校で学んだ知識が業務で通用しないことに焦りを感じました。しかも、各種作業に慣れておらず、段取りや効率が悪いため、作業が遅れてしまうことがよくありました。しかし、先輩職員が設備の構造や仕組み、作業について丁寧に教えてくれたおかげで、ミスすることなく作業のスピードが上がるようになりました。少しずつですが、技術職員として成長している気がします。

川邊 私の場合、地方卸売市場の関係者に届出書類や報告義務に関する説明をすることが大切な役割なのですが、入都当初は趣旨がうまく伝わらず、納得してもらえないことがありました。そんな時、サポートしてくれたのが先輩職員。仕事の進め方について相談に乗ってくれたほか、関係者とのコミュニケーションに関するアドバイスをしてくれました。おかげで、「伝えたいことを一度



整理する」「届出に必要な書類を一覧にした資料を渡す」といった事前準備や説明の仕方に工夫をするようになりました。私はこの仕事を通じて食への意識が高まりました。佐野さんは献立を考える上で旬の食材は意識されていますか。

佐野 はい、季節ごとの食材や子供たちの嗜好を取り入れるなど工夫をしながら、給食内容の改善を行っています。私だけではできないことでも、周囲の方々に協力いただいでできることもあり、恵まれた環境で働かせてもらえることが、よりよい給食運営につながっていると感じます。南さんは子供がいるご家庭が相手なので、時に難しい場面に直面することもあるのではないですか。

南 そうですね、各ご家庭にそれぞれの事情があるので、色々悩むこともあります。なので、オンオフのメリハリをつけることを意識しています。難しい場面もありますが、好きな仕事ができているのだと思うと力が湧いてきます。

「将来は、都の少子高齢化対策に取り組みたい」川邊 「自分の手で東京を災害に強い都市へ」田中

— 最後に将来のビジョンを教えてください。

川邊 先輩職員のフォローやサポートのおかげで、統計調査事務や業務指導・経理検査事務といった業務をやり遂げることができました。今後の目標は、各市場を回り、様々な現場を経験して、市場分野のスペシャリストになることです。また、将来チャンスがあれば、以前から興味があった都の少子高齢化問題に取り組み、貢献したいと思っています。

田中 東京水道は、約1,300万都民のライフライン。その誇りを胸に、当面は様々なリスクに備えつつ、安全でおいしい水の安定供給に取り組みたいです。特に浄水場は、施工、メンテナンスなど多岐にわたる業務があるので、技術職員として幅広いスキルを身に付けたいと思います。そして、いずれは日本の首都、東京をもっともっと災害に強い都市にするプロジェクトにも携わりたいと思っています。

南 児童福祉司となった今、小さい頃からの夢が実現してとてもうれしく思っています。これからも、児童相談所の職員とチームで協力するとともに、学校や福祉事務所などの機関とも連携しながら、子供やその家庭の支援に力を注いでいきたいです。

佐野 給食に対する子供たちの率直な意見を耳にしたり、喫食時間の楽しそうな姿を目にしたりと、学校栄養職員という仕事に大きなやりがいを感じます。これからも安全、安心でおいしい給食の提供を続けるとともに、食育活動により力を注いでいきたいです。学校給食を通して、「食」に関する様々な指導を行い、子供たちの健やかな成長の一助となるよう働きかけていきたいですね。

東京都には様々な職務フィールドがあり、多様な職員がそれぞれの立場で都民生活に貢献すべく奮闘している。職員一人ひとりの成長が明日の東京都を作っていく。都職員として、4名の成長の歩みは始まったばかりだ。

CAREER HISTORY 01

丸山 洋三

Maruyama Yozo

病院経営本部 大塚病院 医事課長／
平成16年入都 事務

【主な経歴】

平成16年 主税局 中央都税事務所 固定資産税課 償却資産第一係
平成21年 選挙管理委員会事務局 総務課 政治団体係主任(主任昇任)
平成24年 総務局 復興支援対策部 被災地支援課
課務担当係長<岩手県派遣>(係長昇任)
平成25年 環境局 都市エネルギー部 分散型エネルギー推進課
企画調整主査
平成26年 人事委員会事務局 試験部 試験課 昇任主査
平成29年 病院経営本部 大塚病院 医事課長(課長昇任)



管理職を目指したきっかけ

上司の後押しを受け、
管理職を目指す

管理職を目指したのは、主任として配属された選挙管理委員会事務局で出会った上司に勧められたことがきっかけでした。当初、自分にはまだ管理職に就く能力は備わっていないと考えましたが、後押しを受けて受験を決意し、翌年、管理職選考に挑戦し合格できました。私が管理職を目指したのは、当時、局内をまとめていた担当部長の姿を近くで見ていたことによる影響も大きかったと思います。都庁内外の多くの人たちから信頼されて活躍している部長の姿に、「いつか自分も、あのようになりたい」と憧れを抱くようになりました。

管理職の仕事について

フットワークを軽く、
顔の見える関係を
築いていく

現在は、都立大塚病院の医事課長として、良質な医療の提供に向けて、院内の各部署と連携し、風通しのいい医療現場を実現するための支援をしています。業務の中では、患者さんの意見や要望をしっかりと聞いて丁寧に対応し、医師や看護師、その他の職種も含め、様々な部署との調整を行うこともあります。円滑な業務遂行を実現するために、メールで済むことでも、できるだけ相手と直接会って、顔の見える関係を作るよう心がけています。管理職になってからは、自分の仕事と並行して、部下に仕事を任せ、育てることも意識しています。その際に、指示が正確に伝わっているかどうか、伝え方に配慮するようになりました。円滑に仕事を進めるためには、仕事の背景・目的を明確に伝えて共有すること、部下の人柄を把握することが重要だと実感しています。任せた仕事が期待以上の結果で返ってきたときは、管理職として大きなやりがいを感じます。

これから管理職としてどのように東京都に関わっていきたいか

目の前のことに全力で、
プロ意識を持って
取り組む

「目の前の仕事に全力で取り組む」。
管理職になる前から意識していることですが、今後もこれを心がけていきます。どんな仕事を任されても全力で取り組むことが、東京都の幅広い業務分野の中で熱い気持ちを持って都民のために良い仕事をするコツであると考えからです。今後も行政のプロという意識を持って、自分に任されたからには仕事を一歩でも半歩でも先に進めたい、という思いで、取り組んでいきたいです。
振り返れば、私は、入都して各局で出会った上司や先輩から、多くの影響を受けてここまで成長できたと思います。もし、全力で取り組む自分の姿勢に影響を受けて、管理職を目指してくれる部下がいるとすれば、とてもうれしいですね。

CAREER HISTORY 02

山崎 かすみ

Yamasaki Kasumi

建設局 第三建設事務所 補修課長／
平成9年入都 土木

【主な経歴】

平成 9年 建設局 第七建設事務所 補修課 補修係
平成12年 建設局 道路管理部 安全施設課 施設計画係
平成14年 水道局 朝霞浄水管理事務所 技術課 浄水施設係(主任昇任)
平成21年 建設局 道路管理部 保全課 企画係次席(係長昇任)
平成26年 建設局 南多摩西部建設事務所 補修課長(課長昇任)
平成27年 建設局 第三建設事務所 補修課長



管理職を目指したきっかけ

裁量の範囲が
広がることで、
仕事のやりがいが増す

係長級に昇任したとき、仕事の幅が広がり、面白みが増してきました。もちろん責任やプレッシャーも増えましたが、裁量の範囲が広がることで得られるやりがいの方が大きかったのです。技術職として極めていく他に、管理職として組織をまとめていくこともキャリアステップの一つの方向として魅力があると感じました。当時の上司が精力的に活躍する姿を見ていたことも、管理職の仕事に興味を持ったきっかけです。

管理職の仕事について

人を育てるために、
待つことも重要

第三建設事務所では新宿、中野、杉並区の道路、河川の整備とその維持管理を行っており、補修課の役割は所管地域の都道を安全で良好な状態に保つことです。毎日の道路点検や、地元からの通報により、損傷した部分の応急処置や修繕を行います。台風や大雨、大雪の際は、職場に待機し緊急対応に備えることもあり、まさに24時間365日体制で取り組んでいます。加えて、路面の補修や橋梁の長寿命化、無電柱化など、長い年月がかかる比較的大規模な補修も行います。例えば、新宿駅西口広場から新宿中央公園方面に向かう新宿副都心四号線地下歩道の改修は、設計から完成まで約8年を要しました。先輩方から引き継いだ仕事が無事に完了したときは、安堵とともに都民の財産としてしっかり管理していこうと気持ちが引き締まりました。
管理職になってから、部下に指示を出したり上司へ報告したり、進行管理の業務が中心です。「人を育てていくために待つことも大事」と以前上司から言われましたが、若手職員には、自ら考え試行錯誤しながら業務を遂行することで成長してもらいたいと思います。その上で、進捗状況を確認し、適時適切にアドバイスするなどサポートをし、一人ひとりの力を引き出しながら日々の業務に取り組んでいきたいです。

これから管理職としてどのように東京都に関わっていきたいか

都民の大事な財産を、
次の世代へ
つなげていく

道路や橋梁等のインフラが整備されることでまちが発展し、利便性が向上します。子供の頃から人の暮らしを豊かにするインフラ整備に興味があり、土木の道に進みました。東京がより機能的で魅力的な都市に発展していくよう、都民の財産である道路を維持管理し、次の世代へつなげていくことが私たちの使命です。東京2020大会に向けて、暑さ対策のための路面補修や標識の整備、街路樹の樹形管理など取り組むべき課題が増えていきますので、管理職としてチームをまとめ、一丸となって尽力していきます。



真に成熟した社会を目指し
世界のモデルとなる都市
「新しい東京」をつくる。

産業労働局長

藤田 裕司 Fujita Yuji

【主な経歴】

昭和58年 衛生局 広尾病院 事務室
平成 2年 総務局 行政部 区政課 主査<台東区派遣>(係長昇任)
平成 7年 労働経済局 産業貿易センター(課長昇任)
平成15年 健康局 総務部 総務課長
平成17年 福祉保健局 参事<総務部 総務課長事務取扱>(部長昇任)
平成25年 福祉保健局 理事(少子高齢化対策・特命担当)(局長昇任)
平成28年 産業労働局長



少子高齢化時代を迎え、
オリンピック・パラリンピックが象徴する
あるべき東京の姿とは

日本では、世界に類を見ないスピードで、高齢化が進んでいる一方で、少子化により、将来的に労働力人口が減少していくことが予想されており、多様な課題を抱えながら少子超高齢社会に突入する初めてのケースとなります。そして、1,300万人の都民が暮らす東京では、特にその課題が先鋭的に現れています。このような状況の中、東京都が様々な都市課題にどのように対処していくか、世界に見本を示していくことが求められています。都職員に求められる使命は、「都民生活の質の向上」を実現していくことです。都内に住んでいる方だけでなく、仕事や学校で、あるいは海外からなど、訪れる人や滞在する人も含めて、全ての人が安全・安心で快適に過ごせる東京を実現させなければなりません。その象徴となるのがオリンピック・パラリンピックだと言えるのではないのでしょうか。東京1964大会は、戦後の日本が近代化していく復興の象徴でした。東京2020大会は「真の成熟した社会」を築いていくことの象徴です。

ハード・ソフトの両面から
課題へアプローチし
局の垣根を超えて解決していく

真に成熟した社会である「新しい東京」をつくるため、私たちは都民ファーストの視点に立ち、「3つのシティ」の実現に向け、取組を加速させています。一つ目は、「セーフ シティ」。つまり、大地震や台風など災害に対しても強く、安全・安心なまちをつくることです。例えば、現在使用している都市インフラの中には東京1964大会に向けて整備されたものも多く、老朽化してきているため、長寿命化や計画的な更新を行っています。

二つ目に、「ダイバーシティ」。誰もがいきいきと活躍できる社会をつくることで、産業労働局で言えば、働き方改革の推進などが挙げられます。女性も、男性も、子供も、高齢者も、障害者も誰もが社会で輝けるような環境づくりを進めています。

三つ目は「スマート シティ」。世界に開かれた、環境先進都市、国際金融・経済都市として、東京の魅力を高めていきます。国際的な都市間競争に勝ち抜く、持続可能な成長を続けるために、快適な都市環境の創出や、多様な機能を集積したまちづくりなどに取り組んでいます。

私たちの仕事は、都民生活に幅広く関わるものです。従って、全ての問題は、「人」を中心に複雑につながっており、それを解決するためには広い視野をもって様々な角度から施策を考え、取り組まなければなりません。

超高齢化社会への対応を例にとると、医療や介護サービスに加え、高齢者の働き方、空き家対策、地域のコミュニティなど、課題は多岐にわたります。そこで、様々な局や部が参加する対策検討本部を立ち上げました。このように、組織を横断して力を合わせて解決していくべき複合的課題が増えているのが現状です。

目的意識をもって
使命感、熱意、柔軟な発想で
課題を解決していく力

都庁では、誰でも平等に実力を発揮することができます。また、23区、多摩地域、島しょ地域と広大なフィールドを持っている上に、制度の策定など都全体を見渡して行う仕事から、地域の方の顔が見える現場の業務まで、多様な分野で経験を積める環境があります。一生の職場として、興味が尽きることがありません。

新しく入都される職員だけでなく、働く職員みんなが意識していくべきことでもあります。大切なのは「都民のために尽くす」という目的意識を忘れないことです。たとえ、それぞれの局や部、仕事が変わっても、目的が同じであれば、ベクトルは同じ方向を向き、課題の解決に向けて共に進むことができます。都民の方や事業者との接点がない部署であっても、自分の仕事がどのように都民の方につながっているかを想像し、理解できていれば、職員としての使命を見失うことはありません。

行政のプロとして職務を行う上で、この初心を忘れないということは非常に重要です。熱意あるみなさんと一緒に働くことができる日を、楽しみに待っています。



Q1

現在、公務員試験の勉強をしています。教養試験や専門試験は科目が多くて、どう勉強すればよいか分かりません。どのように勉強していたのか教えてくださいませんか？

私もどう勉強していいか分からないと感じていた一人です。まずは過去問を解いてみて、自分の苦手な分野や勉強する必要がある分野を絞り込むようにしました。また教養試験では時事問題も出題されるので、前年度の出来事を確認しておくことも大切です。論文対策では、起承転結を意識して書く練習をし、読みやすいロジックを心掛けた。



小澤 拓未
Ozawa Takumi
生活文化局／事務

まずは過去問を解いて、ご自身の実力と合格までの距離を測ることだと思います。それが分かったら、自分の得意・不得意に従って、点数が伸びそうな科目や出題数の多い科目を優先して対策することをおすすめします。専門試験では論点ごとにポイントをおさえた要約文を書く練習が自分には有効な勉強法でした。

私は理系でしたが、学際分野出身で専門を深く学ぶ学科ではありませんでした。そのため専門試験においては機械4大工学ではなく、基礎工学の分野を、また教養試験では数的推理、判断推理、空間概念を重点的に勉強しました。時間的な制約があるため、自分に合わせて選択と集中を行うことが必要な場合もあると思います。



青井 政貴
Aoi Masataka
財務局／機械



佐藤 友美
Sato Yumi
水道局／土木

Q2

独学で試験勉強をしています。予備校に通っている同級生も多いのですが、独学での合格は難しいでしょうか？



日高 光麻
Hidaka Teruma
交通局／建築

教養試験・専門試験・論文全ての試験に向けて、私は市販の参考書や問題集を用いて独学で勉強しました。都の採用HPでも過去問が3年分公開されていますので、そうした資料を通して試験対策を考えていきました。私の周囲の技術系職員には独学で合格された方が多いので、心配は必要ないと思いますよ。

専門科目の基礎知識さえなかった私は予備校に通いました。予備校に通うメリットは、カリキュラムが組まれているので効率的な勉強ができる点と、試験情報が得やすい点です。大切なのはご自分の生活スタイルに合った勉強方法を見つけることです。それができれば独学でも十分合格できると思います。



内野 沙紀
Uchino Saki
総務局／事務

Q3

民間企業との併願を考えています。公務員試験と両立できるか心配なのですが、両立するコツなどあれば教えてくださいませんか？



知識 友紀江
Chishiki Yukie
下水道局／電気

民間企業と併願していました。企業によっては筆記試験もあったので、公務員試験の勉強が役立つ場面もありましたし、民間の方が先に面接が進むので、都の口述試験ではその経験が役立ちました。公務員と民間の共通点や相違点を整理すると、就職活動の軸が定まり、なぜその仕事を目指すかが明確になると思います。

時間は限られているので、どの程度の気持ちで併願しているのかを明確にして、どちらにより比重を置かなどの時間配分をきちんと決めることが大切だと思います。面接はもちろん、筆記試験や論文を課す民間企業もありますから、そういった点も意識して試験対策をしないとと思います。



伊藤 力
Ito Chikara
環境局／環境検査

Q4

人前で話すのが苦手です。緊張してしまいます。面接で緊張しないコツや、どうやって練習したか教えてくださいませんか？



永田 麻里絵
Nagata Marie
福祉保健局／薬剤

面接は自然体で臨めばいいと聞いたことがあります。でもそれが一番難しいですよね。私は面接の練習を繰り返すことで、「慣れる」ことが大切だと思います。学校のキャリアセンターの先生、友達を相手に、自分の思いを人に伝えることができるよう何度か練習した上で本番に臨みました。緊張はしましたが、練習のおかげではっきりと話すことができましたね。

緊張はします。大事なものは、緊張した中でどれだけ落ち着いて話をできるかだと思います。そのために、想定質問をできるだけ多く用意し、考えた回答を話す練習を繰り返し行いました。想定外の質問が来た場合は、対応能力を図る質問だと捉えるようにして、背伸びせず自分の言葉で説明する姿勢で臨んでみてはいかがでしょうか。



小澤 拓未
Ozawa Takumi
生活文化局／事務

Q6

合格をイメージしてやる気を高めたいのですが、先輩が合格を知った瞬間の喜びやそのとき思ったこと、合格後にしたことなどを教えてくださいませんか？

友人が一足先に民間企業への就職を決めていた中で公務員試験に臨んでいたため、ようやく私も就職活動が終わるという解放感が大きかったですね。民間企業からも内々定を頂いていたので、改めて比較検討して就職先を決めました。入都までの間に同期で集まる機会が数回あり、その時知り合った同期とは今も交流が続いています。



知識 友紀江
Chishiki Yukie
下水道局／電気



青井 政貴
Aoi Masataka
財務局／機械

当時の私は、地方の大学で博士課程に通う学生でした。もちろん合格はうれしかったのですが、喜びに浸ることなく、修了に向けて気持ちをすぐに切り替え学業に専念しました。2月末に学位取得が確定し、ようやく引越準備に。準備中には東京での生活をイメージする時間がとても楽しかったことを覚えています。

周りの友人は民間企業希望者が多く、公務員試験の勉強は一人で行っていたので不安もありました。そうした時は、やりたいことや行きたい旅行先をノートに書いてモチベーションを保っていました。ですから合格後にそれらを実現できた時のうれしさはひときわ大きく、今でも忘れられない思い出になっています。



内野 沙紀
Uchino Saki
総務局／事務

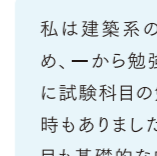
Q5

技術職又は専門職での受験を考えています。先輩から「理系は専攻が活きるから有利」と言われたのですが、それは本当ですか？逆に、自分の専攻と異なる技術職の試験に合格するのは難しいですか？



伊藤 力
Ito Chikara
環境局／環境検査

大学の講義等を覚えていれば解答できる問題もありますし、分からない問題でも知識がある方が対応はしやすいので、専攻が活きる受験は有利だと思います。一方で自分の専攻と異なる技術職又は専門職の試験に合格するには、それなりの準備が必要になるので、より気を引き締めて試験に臨んでほしいですね。



永田 麻由子
Nagata Mayuko
都市整備局／土木

私は建築系の専攻から土木職を受験したため、一から勉強する分野も多く、試験当日までに試験科目の勉強が終わるのか不安に感じる時もありました。過去問を見てみると、どの科目も基礎的な内容が理解できていれば解ける問題が多かったので、過去問を中心に基礎をしっかりとおさえるよう努力しました。



永田 麻由子
Nagata Mayuko
都市整備局／土木

人事制度

職員一人ひとりが、仕事にやりがいを持ち、安心して職務に専念できるように。

昇任や研修に関わる人事制度はもちろんのこと、

「ライフ・ワーク・バランス」が実現できるような勤務制度・福利厚生を整備しています。

人事異動

都では、職務経験を通じた人材育成(OJT)に努めており、職員は定期的な異動を通じて、様々な職務経験を積むこととなります。そのため自己申告制度や庁内公募制人事を設け、職務や異動について本人の積極性を重視し、適性や能力を引き出すことに努めています。

人事異動基準

職員はおおむね3年を目安に異動しており、局内の異動はもちろん、局間の異動も行われています。なお、主任昇任時には局間の異動が原則となっています。さらに管理職選考合格時には中央省庁や民間企業に研修派遣されることもあります。このように人事異動を通じた多様な実務経験により、幅広い視野を持った職員の育成に努めています。

庁内公募制人事

都政を取り巻く社会経済環境の変化や、東京が解決すべき課題に的確に対応し、職員の能力・適性・意向等を最大限に活かし、職務に反映するために実施しています。「若手チャレンジ」をはじめ、都の防災対策といった緊急性の高い「大規模プロジェクト型事業」、法務、公金管理、児童福祉といった「専門性の高い職務」、都市外交などの「国際関連業務」等、毎年多くの職員が応募し、新しい職務にチャレンジしています。

昇任制度

都では、能力・業績主義に基づく任用制度が構築されており、採用時の類別や学歴などにとらわれない公平・平等な選考により、本人の努力次第で昇任することができます。また、2種類の管理職選考、専門職選考など、本人の希望に配慮した多様な昇任ルートが設けられています。

人事考課

都では、職員一人ひとりの能力を最大限に活かし、努力し成果を上げた職員が報われるよう「業績評価制度」や「自己申告制度」等を内容とする人事考課制度を実施しており、昇任選考、昇給、人事異動、人材育成などに活用しています。

勤務条件

公務効率の向上や「ライフ・ワーク・バランス」の実現など、職員が安心して職務に専念できるよう勤務条件の充実を図っています。

給与等

職員はその従事する職務の種類に応じ、異なった給料表及び級号給の適用を受けます。例えば、事務及び技術系の職員など「行政職給料表(一)」の適用を受ける職員の初任給は、下表のとおりです。

試験の種類		初任給*
キャリア活用(課長代理)	大学院修士課程修了後 経験8年の場合	約340,400円
キャリア活用(主任)	大学院修士課程修了後 経験5年の場合	約292,900円
I類A	大学院修士課程修了者の場合	約239,500円
I類B	大学新卒者の場合	約219,200円
II類	短大新卒者の場合	約187,300円
III類	高校新卒者の場合	約173,500円

※ この初任給は、平成30年1月1日現在の給料月額に地域手当(20.0%地域勤務の場合)を加えたものです。なお、採用前に給与改定があった場合は、その定めるところによります。また、民間等における職歴がある場合は、一定の基準により加算されます。この初任給のほか、期末・勤勉手当(年2回)、扶養手当、住居手当、通勤手当、実績に応じ超過勤務手当や休日給、仕事の性質により特殊勤務手当等が支給される場合があります。

休暇

休暇には、年次有給休暇(1年間に20日付与。4月1日採用の場合は15日)・夏季休暇をはじめとして、妊娠・出産に関する休暇、慶弔休暇、介護休暇、ボランティア休暇、長期継続休暇などがあります。また、育児に関する休暇制度も整備されています。

平成29年度採用試験(選考)実施状況

※試験(選考)区分によっては、平成30年度の募集を行わない場合があります。 ※括弧内は女性の人数(内数)です。

	試験(選考)区分	採用予定者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	倍率(倍)
I類A	事務	115	1,034 (312)	131 (50)	7.9
	土木	45	192 (28)	61 (9)	3.1
	建築	10	86 (24)	12 (5)	7.2
	機械	20	73 (1)	25 (0)	2.9
	電気	18	101 (5)	22 (3)	4.6
I類B[一般方式]	行政	340	2,751 (988)	439 (190)	6.3
	土木	85	606 (102)	169 (36)	3.6
	建築	11	129 (40)	24 (11)	5.4
	機械	29	117 (2)	53 (1)	2.2
	電気	22	186 (15)	36 (5)	5.2
	環境検査	23	192 (62)	28 (9)	6.9
	林業	4	82 (30)	7 (3)	11.7
	畜産	3	29 (18)	3 (2)	9.7
	水産	4	51 (9)	8 (1)	6.4
	造園	8	48 (20)	12 (4)	4.0
	心理	6	95 (71)	10 (7)	9.5
	福祉A	16	81 (59)	22 (19)	3.7
	福祉C	1	—	—	—
	衛生監視	12	86 (49)	15 (12)	5.7
	栄養士	10	157 (145)	15 (14)	10.5
	獣医	13	66 (44)	19 (13)	3.5
	薬剤A	25	128 (91)	29 (25)	4.4
	薬剤B	8	93 (45)	9 (5)	10.3
	I類B[新方式]	行政	110程度	1,043 (410)	132 (72)
土木		10程度	62 (8)	13 (1)	4.8
建築		4程度	20 (5)	5 (2)	4.0
II類	司書	1	46 (36)	2 (2)	23.0
	栄養士	30	222 (201)	41 (36)	5.4
III類	事務	50	1,001 (384)	85 (36)	11.8
	土木	20	164 (17)	46 (6)	3.6
	建築	1	18 (6)	3 (2)	6.0
	機械	8	27 (1)	16 (0)	1.7
	電気	10	49 (5)	16 (2)	3.1
障害者採用選考(III類)	事務	45	313 (81)	35 (6)	8.9
	資金運用	3	20 (1)	4 (0)	5.0
	財務	11	83 (20)	13 (1)	6.4
	システム	13	152 (20)	14 (3)	10.9
	不動産	9	56 (9)	11 (2)	5.1
	国際	2	35 (8)	4 (0)	8.8
	医療事務	2	23 (16)	2 (1)	11.5
	土木	40	93 (3)	41 (1)	2.3
	建築構造	2	3 (0)	1 (0)	3.0
	建築施工	7	43 (9)	9 (0)	4.8
	機械設備	13	49 (1)	13 (1)	3.8
	電気設備	10	40 (1)	11 (0)	3.6
	林業	2	8 (1)	2 (0)	4.0
	公園整備	2	20 (3)	3 (1)	6.7
	児童心理	9	37 (23)	9 (6)	4.1
	病院心理	2	16 (11)	2 (1)	8.0
児童福祉	16	58 (26)	14 (9)	4.1	
看護	1	—	—	—	
キャリア活用採用選考	事務	50	1,001 (384)	85 (36)	11.8
	土木	20	164 (17)	46 (6)	3.6
	建築	1	18 (6)	3 (2)	6.0
	機械	8	27 (1)	16 (0)	1.7
	電気	10	49 (5)	16 (2)	3.1
	資金運用	3	20 (1)	4 (0)	5.0
	財務	11	83 (20)	13 (1)	6.4
	システム	13	152 (20)	14 (3)	10.9
	不動産	9	56 (9)	11 (2)	5.1
	国際	2	35 (8)	4 (0)	8.8
	医療事務	2	23 (16)	2 (1)	11.5
	土木	40	93 (3)	41 (1)	2.3
	建築構造	2	3 (0)	1 (0)	3.0
	建築施工	7	43 (9)	9 (0)	4.8
	機械設備	13	49 (1)	13 (1)	3.8
	電気設備	10	40 (1)	11 (0)	3.6
林業	2	8 (1)	2 (0)	4.0	
公園整備	2	20 (3)	3 (1)	6.7	
児童心理	9	37 (23)	9 (6)	4.1	
病院心理	2	16 (11)	2 (1)	8.0	
児童福祉	16	58 (26)	14 (9)	4.1	
看護	1	—	—	—	

注意

当パンフレットに記載されている内容は、平成30年(2018年)1月末現在のものであり、一部追加・変更等が生じる場合があります。平成30年度の実施内容については、試験・選考ごとに作成する試験・選考案内を必ず確認してください。